

SIR 企業レポート

2015 年 5 月 19 日

株式会社イグニス（東証マザーズ：3689）



事業内容

- ・無料ネイティブアプリ、コミックの全巻無料型ハイブリッド（毎日 30 分までは無料、以降は課金）アプリ及びネイティブソーシャルゲームの企画、開発・運営事業者。6 社（内 1 社は米国）の関連会社を持ち、各事業分野での事業展開および海外展開で事業拡大を行っている。
- ・無料ネイティブアプリ（カロリー管理などのツール系からカジュアルゲームまで）では 800 万 MAU（月間アクティブユーザー）を保有。コミックでは、著名タイトルを配信し、アプリユーザーへの広告配信を中心に事業展開を行っている。（昨期においては、売上高の 65%が広告収入、23%が課金収入）
- ・2015 年 2 月に「ぼくとドラゴン」を、当社 2 タイトル目のネイティブソーシャルゲームとしてリリースし、80 万ダウンロードを達成。今後の収益源として期待されている。
- ・無料ネイティブアプリ事業および全巻無料型ハイブリッドアプリ事業については、市場環境の競合激化から売上・利益構造の転換が迫られており、当社は今回収益予想を下方修正するとともに、事業構造のシフトを実施中。
- ・成長の基軸を、分野・デバイスに捉われない「人と人とのコミュニケーションのツール提供」と位置付け、新たなジャンル開発にも取り組んでいる。



アプリ市場を先取りした、事業構造改革に

より収益構造改革が実現できるかが、今後

のポイント（2015 年度 2Q レビュー）

《概況》 2015 年度 2Q 損益計算書 (単位：百万円)

| | 2015年9月期 | 2014年9月期 | 前年同环比 | 差額 |
|----------------|----------|----------|--------|------|
| | 2Q累計 | 2Q累計 | | |
| 売上高 | 506 | 787 | △35.7% | △281 |
| 無料ネイティブアプリ | 392 | 461 | △15.0% | △69 |
| 全巻無料型ハイブリッドアプリ | 31 | 194 | △83.9% | △163 |
| ネイティブソーシャルゲーム | 83 | 131 | △36.6% | △47 |
| 営業利益 | △242 | 130 | - | △373 |
| 営業利益率 | - | 16.6% | | - |
| 経常利益 | △273 | 130 | - | △403 |
| 経常利益率 | - | 16.5% | | - |
| 当期純利益 | △311 | 73 | - | △384 |
| 純利益率 | - | 9.3% | | - |

| | 2015年9月期 | 2014年9月期 | 増減 |
|----------------|----------|----------|----|
| | 2Q累計 | 2Q累計 | |
| 期中のリリースタイトル数 | 23 | 22 | 1 |
| 無料ネイティブアプリ | 19 | 19 | 0 |
| 全巻無料型ハイブリッドアプリ | 3 | 3 | 0 |
| ネイティブソーシャルゲーム | 1 | 0 | 1 |

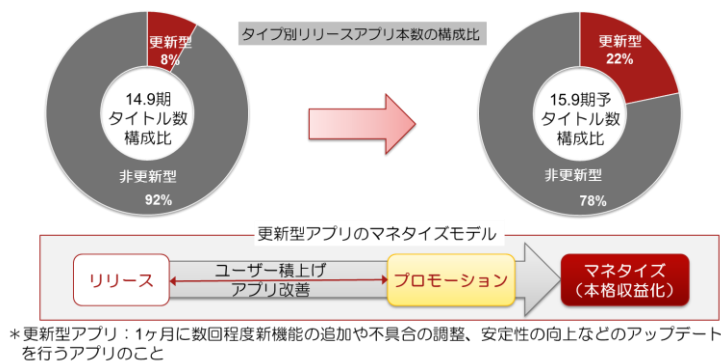
第二四半期までの累計売上では、前期比△35.7%の506百万円、営業利益では△242百万円の着地となった。

主要因としては、

① 無料ネイティブアプリのユーザー需要の変化

小規模なアプリやアプリ配信後に運用を伴わない（アプリの更新やイベント等を行わない）アプリのライフタイムが急速に低減傾向にあり、小規模アプリのマネタイズの難易度が高まったことが主要因。また海外のデベロッパー（ゲーム開発事業者）の広告出稿が減少したこと等により、広告単価も昨期に比べ6割程度に低下した。当社はこの状況を第一四半期から把握し、リリース後の運用を伴う中規模以上のアプリに移行する体制変更を行った。しかし、小規模アプリが開発期間1か月以内であることに対し、中規模（1～3か月）大規模（3か月以上）と開発期間が長く、リリースが後ろ倒しになったことと、アプリのバージョンアップを行うことでユーザーのライフタイムを長期化させる「更新型」アプリに主軸を移したことから、当四半期の売上が減少する状況となった。

なお、当社の無料ネイティブアプリについて、今後とも、配信後もユーザーとのコミュニケーションを重視する更新型アプリを主軸として、ユーザーのライフタイムを向上させ、安定的な収益を生める構造を構築していく方針であるとしている。



② 全巻無料型ハイブリッドアプリの不振

2014年9月期第4四半期より提供を開始した、当社独自のコミックのビジネスモデルであるストア型アプリ（1日30分読み放題。ダウンロードしたアプリには新しいタイトルが順次提供される。収益は広告と、30分を超えた場合の課金）が想定以上に苦戦。

当四半期の売上高は前期比△83.9%の31百万円と大幅な下落を記録した。

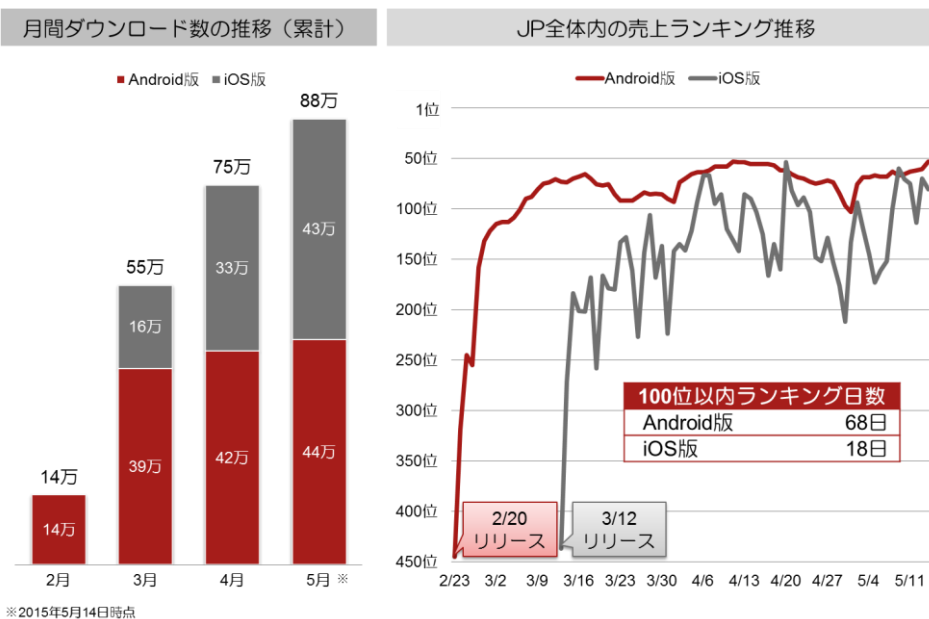
その要因としては、コミックの「無料購読」アプリが一般化したことにより、ビジネスモデルの課金体系がユーザーに受け入れられにくくなったことが課題であると当社は考えている。

今後当社は、現状のビジネスモデルを変換するとともに、海外展開を強化する方針。

例えば、韓国では、5月より日本の人気コミックスの配信を実施。今後このようなアクティビティも強化し、コンテンツ配信ビジネスを再構築することを考えている。

③ ソーシャルネイティブゲームの状況

ソーシャルネイティブゲームについては、リリースの遅れがあったものの、その後のユーザー獲得およびセールスについては好調に推移している。



上記のようなダウンロードおよび売上を記録しており、来期以降の収益源として期待できる構造を構築していると考えられる。また、当社は今までのゲーム構築および運用のノウハウを活用した、新たなゲーム開発を考えており、この部分では来期以降の新収益源が生まれることも想定できる。

このような事業環境の下で、ネイティブアプリ提供事業者（ゲームに限らないアプリの提供事業者）の収益構造が不安定になりがちな状況の中、当社は「早期に事業構造上の課題を認識し、ビジネスモデルの変革を行う」として、第一四半期より大幅に人員をシフトし、その改革に着手した。しかし、こうした人員シフトの結果として当期においては特に無料ネイティブアプリのマネタイズの遅れが発生する状況を招くことにつながり、大幅な下方修正となったものである。

(単位：百万円)

| | 2014年9月期 実績 | 2015年9月期 | | 2015年9月期 | | | | |
|-------|----------------|----------|---------|----------|--------------|-------------|------------|---------|
| | | 期初予想 | 前期比 | 修正予想 | 対期初予想 増減率 | 対期初予想 差額 | 前期比 増減率 | 前期比 |
| 売上高 | 2,047 | 3,314 | +61.9% | 1,700 | △48.7% | △1,614 | △17.0% | △347 |
| 営業利益 | 561 | 1,000 | +78.1% | △504 | - | △1,504 | - | △1,065 |
| 営業利益率 | 27.4% | 30.2% | +2.8pts | - | | | | |
| 経常利益 | 545 | 1,000 | +83.5% | △553 | - | △1,554 | - | △1,098 |
| 経常利益率 | 26.6% | 30.2% | +3.6pts | - | | | | |
| 当期純利益 | 309 | 600 | +93.6% | △582 | - | △1,182 | - | △892 |
| 純利益率 | 15.1% | 18.1% | +3.0pts | - | | | | |
| EPS | 56.1円 | 99.4円 | +77.1% | △95.6円 | - | △195.0円 | - | △151.7円 |

期初予想から比べると、売上高で約 50%減、利益も約 15 億円の減少となっており、当社の収益構造が大幅に変動していることは否めない。

しかし、当社のミッション「次の当たり前を創る。何度でも。」には、当社として分野・デバイスに捉われない「人と人とのコミュニケーションのツール提供」を成長の基軸と位置付け、常に新たなジャンル開発や、新たなビジネスモデルを構築しようとする企業体質が表れており、これは、上記に述べたような対策の確実な実施により、健全に維持されているものと受け止められる。

今後の当社の新たなビジネスモデル創造により、事業発展が行われることが望まれる。

SIR は、今後の当社のもとその進行状況を詳細にレポートしていきたい。

ストラテジック・アイアール・インサイト株式会社
代表取締役社長 関口 裕一

免責事項

・本レポートは、ストラテジック・アイアール・インサイト株式会社が、投資家に対して株式投資の参考資料として作成したものであり、特定の証券又は金融商品の売買の推奨、勧誘を目的としたものではありません。

・本レポートの記載内容は、一般に入手可能な公開情報および、弊社取材による情報に基づいて作成されたものであり、インサイダー情報の入手およびその使用は禁じられております。本レポート作成に当たり、その情報は正確かつ信頼に足るものと考えておりますが、その正確性が客観的に検証されているものではありません。

・本レポートに含まれる情報は、金融市場・商品市況・経済環境等の変動等の理由により最新のものではなくなる可能性があります。また、本レポート内で記載されている、現状および将来的な予測については、弊社が適切と判断した材料に基づく弊社予想であり、実際とは異なることがあります。したがって、将来の数値等について明示または黙示を問わずこれを保証するものではありません。

・本レポート内で示す見解は予告なしに変更されることがあり、弊社は本レポート内に含まれる情報および見解を更新する義務を負うものではありません。

・弊社は、投資家が本レポートを利用したことまたは本レポートに依拠したことによる、直接・間接の損失や逸失利益および損害を含むいかなる結果についても一切の責任を負うものではありません。

・本レポートの著作権はストラテジック・アイアール・インサイト株式会社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

ストラテジック・アイアール・インサイト株式会社